

【専門教育科目/看護の展開/看護の統合と発展】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
感染看護論		選択	1	4	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
堀口 まり子	410	mariko.horiguchi	授業日 16:30~18:00		
授業の目的・概要	感染を未然に防ぐ知識と技術は、地域・在宅から高度専門医療機関まであらゆる看護の領域において必要なため、施設内及び市中感染における感染防護のための基礎的知識・技術、感染症を罹患した患者の看護のための基礎的知識と技術を修得する。具体的には、感染症とそれに対する生体防護機構と感染症に関する環境の影響から感染成立の機構を理解し、感染予防技術の原則について学ぶとともに、看護の専門領域としてその活躍が期待されるインフェクション・コントロールナース（感染管理認定看護師）の役割について学習する。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> グループワーク				
学習上の助言	近年の感染対策の動向と感染対策の基本的な考え方が理解でき、整理できるように実際の事例を意識的にとりあげる。感染対策の看護を実習体験から振り返り、看護を考える機会にすること。				
教科書	感染看護学 /編:操 華子・川上和美 /南江堂 /2022				
参考書	・系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ /著:有田清子 /医学書院 /2021 ・系統看護学講座専門分野Ⅱ アレルギー・膠原病感染症 /編:岩田健太郎 他 /医学書院 /2020 ・微生物学・感染症学/中野隆史/南江堂/2020				
外部教材	なし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	組織の中の感染制御の位置づけを説明できる。		HSU(2),NS(2)		
②	感染症法と新興・再興感染症対策について説明できる。		HSU(2),NS(2)		
③	感染症と標準予防策と経路別予防策を説明できる。		HSU(2),NS(2)		
④	感染防止技術について説明できる。		HSU(2),NS(2)		
⑤	感染症看護の知識や技術が説明できる。		HSU(2)(4),NS(2)(4)		
⑥	感染予防における看護職の役割と機能について説明できる。		HSU(2)(5),NS(2)(5)		
授業計画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	感染症をめぐる歴史と現状 感染の基礎知識と感染症 感染症と法制度	講義	教科書を読み理解して授業に臨む。	4	
2	感染予防の実施における考え方 感染予防のための基本技術 感染予防における多職種連携	講義	教科書を読み理解して授業に臨む。	3	
3	感染管理と看護 感染管理プログラム展開の実際 感染看護と倫理	講義 GW 発表	事前課題：感染症に係る記事について概要をまとめてレポートして授業に臨む。	4	
4			教科書を読み理解して授業に臨む。	4	
5	感染予防のための基本技術 標準予防策 感染経路別予防策	講義 演習	教科書を読み、理解して授業に臨む。	4	
6			教科書を読み、理解して授業に臨む。	4	
7	さまざまな状況における感染看護の実際 感染看護に対する各自の考えの変化と看護/看護 学生が臨床の場で注意すること	講義 GW 発表	教科書を読み、理解して授業に臨む。課題に沿ってグループでディスカッションする。	4	
8			感染看護に対する自分の考えの変化と臨床で注意することをレポートする。	3	
試	達成度評価・評価のポイント参照				

【専門教育科目/看護の展開/看護の統合と発展】

		達成度評価						
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
総合力指標	知識・技術力	60	20	0	0	20	100	
	思考・推論・創造する力	50	10	0	0	0	60	
	思考・推論・創造する力	10	10	0	0	0	20	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	10	10	
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10	
問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0		
評価のポイント							フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点						
試験	①	✓	筆記試験による最終試験により学習成果を評価する。					必要に応じて解説を行う。
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
	⑥	✓						
レポート	①	✓	レポートにより、授業内容の理解および学生自身の考え方が明確に表現されているかを評価する。					授業中にフィードバックする
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
	⑥	✓						
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①		グループワークへの参加姿勢や意欲と授業への出席欠席を総合的に評価する。					授業中に助言を行う。
	②							
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
	⑥	✓						
備考								
他担当教員	なし							
教員の実務経験	科目責任者は病院の看護師として40年の臨床経験を有する。							
実践的授業の内容	実務経験のある教員の指導のもと、感染看護について理解を深める。教員の経験から感染症看護の実践事例を取り上げ、教科書と比較しながら学習する。							
その他	・授業には特別の理由がない限り毎回出席し、理由のない授業の欠席は減点とする。 ・試験への教科書持ち込みは不可とする。							